



【般若科技と大古鐵器 会社紹介】

般若科技と大古鐵器二社は林允進博士と夫人の蔡秋琦と共同創立の会社であり、台湾中小企業の伝説会社とされています。会社生産の水上バイク用インペラの世界市場シェアはほぼ 100%で、プレジャーボート用のプロペラの世界市場シェアも 40%あります。鉄瓶、鉄鍋の品質が誇られ、台湾国内で最も人気がある鑄鉄商品です。

林博士は彰化県芳苑郷で生まれました。台湾海洋大学卒業後、25 歳に日本東京大学大学院の船舶工学系に進学しました。船型の設計研究を専攻し、博士論文は日本造船協会の「年度優秀論文賞」を受賞しました。林博士が発明した船尾形状は現在、世界の商船に活用されています。1980 年に帰国して、台湾大学の造船研究所の教職に就きました。しかし、幼い頃の「企業家に成る」夢を実現するために、1985 年に教職を思い切って放棄し、台中で般若科技株式会社を設立しました。1988 年に水上バイク用インペラは開発されました。1993 年には般若科技が水上バイク国際大会（IJSBA World Finals）で選手の Mr. Nicolas Rius をスポンサードしました。Mr. Nicolas Rius は世界チャンピオンを獲得したことで、般若の自社ブランドの認知度がより一層向上しました。1995 年にアメリカのマイアミで子会社を設立し、積極的にマイアミで各種プロペラの実船テストを行い、徐々に米国市場に参入しました。2002 年に会社が 6S 活動をスタートし、2004 年にトヨタ生産方式を導入したことにより、会社の業績が急速に成長してきました。2005 年世界中のお客様を招待し、会社の 20 周年を祝いました。2007 年に NTD10 億の実績を突破し、般若科技は徐々に小型ボート用プロペラの世界一ブランドになりました。

会社成長しているとき、2012 年に董事長の蔡の記憶力が衰退のことが分かりました。一連の治療後に緩やかに治りました。お医者より蔡の健康に対するアドバイスを受けたことから、鑄鉄製調理器具の研究を始めました。しかし、どこを尋ねても安心して使えて満足のいく鑄鉄製の瓶・鍋が見つからず、「健康を考えた、本当に安心して使える調理器具の製造」を初志とし、その生命を「大古鐵器」に注ぎ込むことを決意しました。

般若科技は愛を出発点として「潜在力の発揮、革新卓越、人々幸せのために」の経営理念を実践しています。自らの研究技術と製造があるからこそ、2008 年の世界的な金融危機に直面しても、2010 年には速く回復して成長し、2018 年には NTD15 億の優れた実績を達成しました。経営上には KPI を考慮することではなく、人本主義を重視し、幸せな企業を指向する会社です。般若科技は世界一のブランドを実現しています。